

## ◇僧侶研修会・同朋運動推進養成研開催

二〇二〇年度高岡教区「御同朋の社会を目指す運動推進僧侶研修会」が開催され、第一回が九月十六日（水）午後五時半より、第二回が九月十七日（木）午後一時半より、第三回が二十六日（金）午後一時半より西本願寺高岡会館において催行された。



今年度は「女人往生を考えるー『み教えと差別の現実』に学ぶⅡ」をテーマに同和教育振興会派遣講師の岩本智依さん（奈良教区奈良組常蓮寺衆徒）を講師に迎え、仏教における女性差別思想と女人往生について学びを深めた。（詳細は「御同朋の社会をめざす運動のコーナー」にて）

また、去る九月二十五日（金）に西本願寺高岡会館において第八回同朋運動推進者養成研修会が開催され、僧侶研修会と同じく岩本智依さんを講師に「御同朋（反差別）の教学」をテーマに、差別問題がなぜ教学的課題なのかということについて学びを深めた。

## ◇仏教婦人会連盟・寺院女性会連盟

## 合同実践運動研修会が開催

去る九月二十五日（金）高岡龍谷高等学校講堂にお

いて仏教婦人会連盟・寺院女性会連盟合同実践運動研修会が開催され、寺院女性・仏婦会員合わせて五十名余りが参加した。

「今、私たちにできること」と「み教えを依りどころとして」とのテーマで、高岡教区教務所長の森尾淳章師にお話をいただいた。

例年は、問題提

起があり班別での話し合いで互いの考えを深める形式であるが、本年は新型コロナウイルス感染症拡大につき、講義形式となった。会場も例年は西本願寺高岡会館の礼拝堂で行っていたが、ソーシャルディスタンス確保のため、高岡龍谷高等学校に協力を仰ぎ、平日で授業中ではあったが講堂を借り、広い会場で開催することができた。

参加者からは、人には目に見えないウイルス等に不安を感じる。ウイルス感染する人（眼に見える対象）が現れるとそこに差別が生まれる。今こそ、仏法が不安を取り除く教えでなく、不安を乗り越えていく教えであることを伝えていかなければならないとお話共感する声が多数あった。また、ソーシャルディスタンス、換気が十分にされ安心して研修会に安心して参加できたとの声も多数あった。



★高岡教区全戦没者を悼み平和を願うつどい

九月十八日(金)、高岡教区全戦没者を悼み平和を願うつどいが開催された。例年は八月上旬に行われていたが、新型コロナウイルスの影響により日時を変更して開催。従来高岡教区は、本願寺派主催で千鳥ヶ淵墓苑(東京)にて行われている千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要に団体参拝を行っているが、今年度は団体参拝の募集がなく、オンライン中継での開催により、追悼法要の終了後に開催した。今回のつどいは、宗派制作の『ドキュメンタリー沖縄戦知られざる悲しみの記憶』(太田隆文監督)の上映会を行い、三十名余りが鑑賞。太平洋戦争下における唯一の地上戦が展開された沖縄の状況を様々な立場の方々が、克明に語ったこの映画は、全国の映画館でも上映をされており、沖縄の歴史だけでなく戦前や戦後の日本の様子がよくわかる作品となっている。

参加された方から「住民の方々の語りで戦いの実相が身近に感じられ大変良い映画だった」「改めて悲惨な戦争を二度としてはいけない」「沖縄の方々の戦後が一段と痛ましいものになっていく現状に大変心が痛む」「この映画を多くの方々に見てもらいたい」等の声があった。

▼富山教区との野球交歓会

九月十二日(土) 富山教区本願寺クレシヤースとの野球交歓会



が開催された。従来本山杯野球大会として、本願寺野球部との三つ巴で行われていたが、新型コロナウイルスの影響により今年度の本山杯は中止となったため、代替えとして実施された。

午後二時、常願寺川公園野球場で試合が始まり一試合目は先発の五十田秀慧選手(砺波組安詳寺)が好投を続けていたが、終盤に逆転され富山教区が五対三で、二試合目は、序盤は富山教区に二点を先制されたが、五回に投手の制球の乱れから逆転し、高岡教区が六対二でそれぞれ勝ち一勝一敗という結果であった。尚、高岡教区からは各組より十四名の選手が参加した。今回は野球交歓会という形であったが、次年度は感染状況を見極めながら八月の最終土曜日に本山杯の開催を予定している。

★「令和二年七月豪雨」災害義援金

八月末まで、各ご寺院にご依頼いたしました標記災害義援金につきましては、一〇八ヶ寺さまより、百十九万七十一円(振込手数料を除く)の義援金を頂戴いたしました。ありがとうございます。

本義援金は、災害対策委員会の議により、九月二十三日付、富岡教区へ十五万円、大分教区へ三十万円、佐賀教区へ二十五万円、熊本教区へ四十九万七十一円をそれぞれお届けいたしましたのでご報告いたします。



## ★御同朋の社会をめざす運動のコーナー

み教えと差別の現実に学ぶとは「教区僧侶研修会で確かめられたこと」  
二〇二〇年度の高岡教区「御同朋の社会をめざす運動」推進僧侶研究会が九月、『女人往生』を考える―「み教えと差別の現実」に学ぶⅡ―をテーマに、計三回にわたり開催されました。

宗派で作成された僧侶研修会の参考資料『み教えと差別の現実』をテキストに、「五障三従」と「変成男子」を中心に展開された「女人往生」論（女性はそのままでは往生できない劣った存在であるという教説）が女性を差別する根拠として利用されてきた事実を学び、「女人往生」に対する親鸞聖人の受けとめを通して私自身の經典の読み方と教えの受けとめ（教学）を見つめ直し、今なお教団と社会にある女性差別の現実を問うことが研修の趣旨でした。

ご講師の岩本智依さん（一般財団法人同和教育振興会講師団講師）は講義の中で、「僧侶研修会を実施するなかで明らかに変わったのは僧侶が差別をするという事実であり、二〇一二年に安芸教区で惹起した過去帳又はこれに類する帳簿の開示問題では、教えと僧侶の現実との乖離と、社会とともに変化していく差別を自らの課題としえない僧侶の体質が問われた」と、僧侶の現状について述べられ、經典の言葉を用いて差別を正当化するなど、今日に至る女性差別の歴史の中で仏教が果たしてきた役割と僧侶が加担してきた事実を指摘されました。そして、「依義不依文」という經典の読み方を提示され、「經典をそのまま読むのではなく、經典の言葉に込められた仏意を読み解くことが重要」としたうえで、「親鸞聖人は、『仏説観無量寿經』に対する善導大師の韋提希観（韋提希実凡説）に従い、『弥陀の名願によらざれば 百千万劫すぐれどもいつつのさはりはなれねば 女身をいかでか転ずべし』（『高僧和讃』善導讚）を読まれた。この和讃は五障三従を肯定したのではなく、自分の意思を奪われた韋提希が差別から解放され、人間としての尊厳を取り戻していく、つまり差別を打ち破るための和讃であった」と、「女人往生」に対する親鸞聖人の經典理解と基本姿勢を示して下さいました。

班別協議会では、女性が相撲の土俵に上がれないことや女性僧侶の居場所を奪うような言動など、女性差別の現実を指摘する声、また「經典における差別表現はその時代においては仕方がなかったのではないか」という声などが聞かれました。

それらの意見に対し、ご講師から、「女性が差別される社会は必ず男性、そして性的マイノリティの人たちも差別される社会である。女性差別の克服はすべての人にとっての課題である。經典はその時代の現実に根ざしたものであるが、時代の限界だから仕方がないと言ってしまえば、教えは不変（普遍）でなくなる。いつの時代においても經典は教えであり、いまを生きるための道しるべである。女性差別の現実に向き合えば、克服していく視点で經典を読まなければ仏願は理解できない。被差別者の苦悩の現実にこそ解放の願いがはたらいている。經典から女性差別解放の願いを読み解くことが僧侶に求められている」との助言をいただきました。

今年度の僧侶研修会に参加して、「經典をどう読むか」ということは「差別の現実にどう向き合うか」ということと同義であり、經典の言葉を差別に利用しない（させない）ことはもちろん、現実にあるさまざまな差別を克服していくことが、いまを生きる僧侶（私）の課題であると感じました。

僧侶研修会が始まるきっかけとなったのは、部落差別を受けてきた門徒、僧侶からの「あなたたちが聞き語っている教えは、本当に親鸞聖人の教えなのですか？」との問いかけでした。つまり、部落差別をはじめあらゆる差別の現実から教団と僧侶のあり方が問われたことから始まったのです。僧侶研修会は、単に僧侶が集まって学習するためではなく、僧侶である私の何が具体的に問われているのか、問われたことに応えていくためにはどうすればよいのかを考え、実践していくための研修会です。僧侶にとってこの場に参加することは必須だと私は考えます。差別問題は社会問題にとどまらず、一人一人の僧侶が日常の中で問いつけなければならない教学的課題なのです。

【教区同朋運動企画専門委員会副委員長・伏木組 要願寺 林 史樹】

◇これからの日程（10/14～11/31）◇

10月	教区・財団行事	教化団体・組行事
14	常例法座	
15		教化団体協議会
19	全国組長研修会(オンライン)	
20		仏婦教材委員会
21		長寿苑ビハーラ活動
23		門徒推進員連区研修会 (中止)(岐阜)～24
31		全国仏壯備後大会(延期)
11月		
4		仏婦執行部会
14	常例法座	
25	親鸞聖人を語る夕べ	
26	会館報恩講	

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送 (KNB)・738kHz.

◎毎週土曜日(本山制作)午前6:15～6:25  
□第2・4日曜日(富山・高岡制作)午前6:00～6:10

◎10/31(土): 福本 康之氏

(浄土真宗本願寺派 総合研究所副所長)

「音楽をご縁として」

◎11/7(土): 福本 康之氏

(浄土真宗本願寺派 総合研究所副所長)

「仏教と音楽について

－研究を通して見えてきたもの－

□11/8(日): 未 定

(富山教区)

◎11/14(土): 福本 康之氏

(浄土真宗本願寺派 総合研究所副所長)

「宗門の合唱活動」

◎11/21(土): 福本 康之氏

(浄土真宗本願寺派 総合研究所副所長)

「仏教音楽のいろいろ」

□11/22(日): 未 定

(富山教区)

☆お知らせ☆

「法輪せんべい」販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱(170袋) 10,000円

・1組(10袋) 600円

お申込み先は…高岡市東上関446 高岡教務所内  
(寺族青年会担当)

Tel.(050)5587-7708(代表)

Fax.(0766)21-5152

【西本願寺高岡会館11月の常例法座】

ご講師: 村上 昂 文 氏

(高岡教区水波組西養寺)

ご講題: 『未 定』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。